

《巻頭言》

新しい1年をむかえて

(一社)神奈川県建築士会会長 金子 修司

新年おめでとうございます。この1年が希望と活気に満ちた年である事を祈念いたします。

思わぬ結果となった米国の大統領選挙、隣国韓国の政治混迷、欧州ではイギリスのEUからの離脱等々いずれも日本の将来を左右する大きな問題に繋がっています。長期政権で日本をリードする安倍政権の誤りなき選択に期待するばかりです。

昨年の建築界最大の話題であった2020年東京オリンピック施設の建設についてはすでにスタートが切られ、時間とコストの狭間の中で緊急避難的に決まったデザインビルドは課題未解決のまま積み残された感があります。今後、公共建築の多くがこの方式で計画される傾向にある事は大きな疑問点です。建築物の発注については、設計と施工の分離により、責任の所在を明確にした方式により、品質の高い優れた創造性豊かな建物の実現を目指して行かなければなりません。安いことが良い事であるかの如きコスト重視の考え方からは優れた建築は生まれません。

これからの社会に求められる優れた施設造りのために建築士の多方面にわたる活躍が期待される所です。建設関連業界は設計、施工、建設資材などあらゆる分野にわたる幅広いフィールドに繋がり、地域経済活性化に大きな力を持っています。建築物の耐震化、高度成長期に造られた公共インフラや施設の老朽化、維持管理への対応など社会ニーズは高く、必要とされる専門家として活躍の場は広がっています。労働力不足、建設資材の高騰など、多くの社会問題化した課題が存在しますが、建築士としての誇りと社会への責任を果たす建築士会会員としての活躍が期待されます。

昨年10月に建築士会全国大会が九州の湯の

町大分で開催され、神奈川から44人の会員が参加し、全国から3,100人の参加者が集いました。有意義なコンベンション、賑やかで活気溢れる懇親会、熱心な研究発表が行われ、

見学ツアーでは建築家磯崎新の懐かしい作品群を訪問しました。詳しくは今回のSALON81号で特集していますので、ご覧ください。

また次年度の関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会が地元箱根で開催されます。多くの会員のご参加とご協力をお願いします。湯の町箱根をPRし、青年協の若いパワーを応援しましょう。

また、昨年10月3日に行われた交流会では地域支部や委員会の活動発表が行われ、それぞれの思いのこもった活動の一端を知ることが出来ました。日常の活動だけでなく各種イベントへの参加によって、新しく生まれる交流が士会活動の通奏低音としてネットワークを支える魅力である事を実感しました。

建築士会入会のメリットは貴方が会員となっていることにほかなりません。コンプライアンスを守る責任を持った専門の資格として建築士の存在をさらに社会に訴え、リスペクトされ、信頼される建築士を目指しましょう。

会員数の減少傾向は続きますが、建築士会の会員である事が誇りとなり、ステータスである事を自覚し活動を展開して行きましょう。

皆様と共に新しく迎えたこの1年を実り多い年としたいと考えますので宜しくお願いいたします。



第59回 建築士会全国大会・大分大会

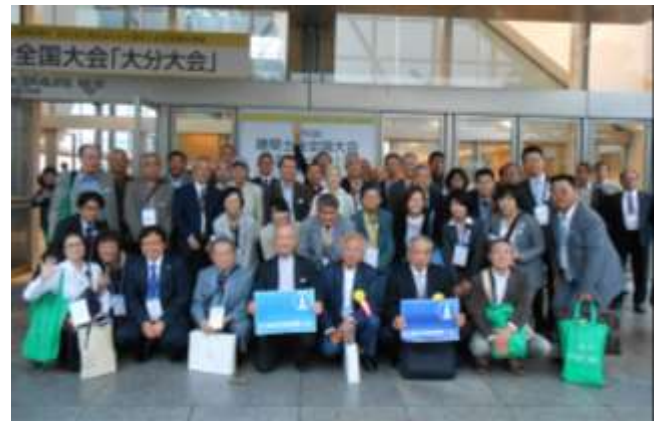
今年の全国大会は、去る10月22日（土）・23日（日）の2日間、「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生〈おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵〉と題し、大分県別府市のコンベンションホール、ピーコンプラザ（磯崎新設計）で開催されました。遠方開催でしたが、本会からは、表彰者4名を含め44名の皆さんが参加し、全国から約3,100名が集まりました。

記念講演は、「下町のナポレオン」というキャッチコピーで有名になった大分の麦焼酎 iichiko のアートディレクターである河北秀也氏と三和酒造の名誉会長西太一郎氏により「どうしたらもっと幸せになれるか、それを考えるのがデザイン」と題して行われました。

別府温泉と一口に言いますが、別府八湯（別府、浜脇、観海寺、堀田、明礬、鉄輪、柴石、亀川）の総称です。それぞれ泉質が異なり効能も違います。大分大会のセッションも女性委員会、情報部会、防災まちづくり部会、街中（空き家）まちづくり部会、青年委員会、建築相談部会、環境部会+全国ヘリテージマネージャー大会（別会場）の8セッションに分かれて情報交換および議論がなされ、参加者各自はその効能を享受したことだと思います。

大会式典の最後は、来年の開催地である京都府建築士会によるアピールで締めくくられ、全国大会のバトンが、温泉の源泉数、湧出量ともに日本一の大分から日本の誇る古都京都（国指定重要文化財の建造物数日本一）へ引き継がれました。

今回参加されなかった皆さんも、来年の京都大会には、ぜひ、ご参加ください。



ここでは、参加された皆様に、全国大会をレポートしていただきましたのでご紹介します。

（情報広報委員会 角 桂介）

第4回全国ヘリテージマネージャー大会

歴史的建造物の活用推進と法規制

神奈川県ヘリテージマネージャー 芝 京子

1928年吉田鉄郎によって、ストックホルム市庁舎をモチーフにし設計された、別府市公会堂の大ホールにおいて、第4回ヘリテージマネージャー大会（以下ヘリマネ大会）は開催された。今回は今までと違い特別な重みを感じる大会である。

なぜなら、150余名のヘリマネ修了生がいる神奈川県では、本年8月に念願の「かながわヘリテージマネージャー協会」を正式に立ち上げたばかりであり、今、協会として活動を模索している時である。神奈川県には歴史的建造物は多く、その保存、利活用等活動は活発だと思っている。



別府市公会堂

今回のテーマは、「熊本地震による歴史的建造物の被害状況と今後の対応」として、大分県建築士会「大分県の歴史的建造物の活用推進と地震対応」、熊本県建築士会「熊本地震による被害歴史的建造物の状況と対応」、福

県には歴史的建造物は多く、その保存、利活用等活動は活発だと思っている。



今回のテーマは、「熊本地震による歴史的建造物の被害状況と今後の対応」として、大分県建築士会「大分県の歴史的建造物の活用推進と地震対応」、熊本県建築士会「熊本地震による被害歴史的建造物の状況と対応」、福





岡山建築士会「九州ブロック連携協定に基づく被災 歴史的建造物調査の実際と展望」、ひょうごヘリテージ機構「デジタルマップを活用した被災状況模擬調査」の4例が発表された。それぞれの事例は、すべて状況や条件は異なっているが、まとめとして、①人、②ネットワーク、③リスト が挙げられた。阪神大震災の時には、①②③すべてなかった。東日本大震災では、①と②があった。熊本地震では、①②③があった・・・という結論を得た。しかし、今後の課題は数多くある。資金の確保、未指定建築物の支援の拡充、復旧への助言、ヘリマネのネットワーク化等、問題は山積している。今後のヘリマネ活動の重要性をより強く感じた大会であった。

交流セッション「木造建築フォーラム」
地域でたちあげるこれからの木造建築
湘南支部 高橋 恵子

木造建築フォーラムは、第1部は腰原幹雄氏（東京大学生産技術研究所 教授）による講演「日本の森林状況と地域の都市型木造の可能性」、第2部は、腰原氏をコーディネーターとして、「これからの現代木造建築」について、稲山正弘氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）、原田浩司氏（木構造振興(株) 客員研究員）、山代悟氏（建築家 ビルディングランドスケープ共同主宰）の皆さまによるパネルディスカッション形式でお話を伺う形で開催されました。

国内生産体制の認識の向上や世代間継承の推進、エリアネットワークの構築、地球環境への意識などの様々な課題について、また、コスト・材料調



達、防耐火の法規制、構造計画と構造計算、設計手間の省力化などについて、木造建築の可能性を探られている様々な取り組みのお話を伺うことができました。



腰原幹雄氏



稲山氏・原田氏・山代氏

交流セッション「街中（空き家）まちづくり」
空き家を軸にしたまちづくり
セッション参加で思うこと
横須賀支部 浦 絵美

「空き家」対策は全国的な課題であり、私的でも直面した為、街中（空き家）まちづくり部会セッションに参加した。2015年に連合会にて立上ったこの部会の活動報告・空き家活用街づくり事例報告・クロストークが行われた。

計2件の事例報告は、どちらも空き家単体での活用は難しく、街全体での取組が必要と実感する事例である。街全体で取組むには、空き家単体の改修設計業務だけでは終わらない。町の方々との話し合い、家主と借主のマッチング、店舗誘致…などなど設計業務以外の、でも、とても面白くやりがいのある業務までついてくる。



私自身も、保育所の改修案件を行った際、運営まで施主と一緒に考えたこともあり、実は、設計以外のこの付随業務こそ、

楽しかった経験がある。「所員を抱える中、よくそこまで出来る」との進行者の言葉があり、どうしても聞きたい事が頭に浮かんだ。クロストークでは、各テーマに対し、一つだけ早いもの順で質問できるとのこと。「業務として、事業として成り立つ？」とのテーマが始まり、勇気を振り絞り、質問をした。「設計業務と、この空き家活用業務の比率は？」回答は、「週3が設計業務、週4が空き家活用業務なので、ほぼボランティア」とのこと。現状の体制では、やはりそうなる！「街中（空き家）部会」では、空き家活用土の人材育成プログラムを作成中とのこと。

こちらが動き出せば、ほぼボランティアも、半分ボランティア程度には？と期待中である。まずは、この人材育成プログラム講座の受講がスタートと感じるセッションであった。

交流セッション「防災まちづくり」

災害多発時代にどう向き合うか

川崎支部 熊沢 恵美子

全国大会は平日という事もあり毎年参加する事が叶わず、2度目の参加となりました。多くの興味を惹かれるセッションがありましたが、大分大会という事もあり、防災まちづくり部会に参加致しました。

私自身は神奈川で、応急危険度判定士の資格を取得したものの、その後は所属する川崎支部で開催した会員向け被災地住宅相談員（キャラバン隊）研修会の参加にとどまり、多くの疑問を抱えたまま今日に至っていました。

セッションの中で『建築士は建物を通して人の命と暮らしを守る役割を担っており、日頃から地域や行政と普段付き合いをする事が前提である』という、一見当たり前の事の重要さを、改めて強く感じました。災害時、マニュアルの内容だけでは、現実には不足であり、本来なら取り纏める行政職員も被災者となり、避難所が設置されている事より、避難所に行かずに避難出来る事を第一に考えなければならないという事も、改めて気付かされました。災害時の仮設住宅スキームを、既に行政や業界と連携して対策が進められている県もあり、何時何処で災害が起きるとも解らない現在の日本の中心位置にある神奈川でありながら、行政や地域、業界のみならず、建築士会の中でも災害時の横の連携が取れる様、早急に『普段付き合い』を始めなければならないのではないのでしょうか。

建築士会に入会していない建築士にも、資格者として応急危険度判定士の資格を取ることを勧め、最低限必要な知識を発信する事も必要に思いました。災害時 SNS で間違った情報が拡大する被害も見られますが、日頃から Facebook で繋がっている他県の建築士会の仲間だからこそ、正しい情報を顔の見える仲間に発信出来たという、ネットコミュニケーションは、大変重要である事も再認識しました。

私自身、防災について疑問を抱えたまま、受け身でいた事を反省しつつ、他にも多くの事を得る事が出来た、大変有意義な全国大分大会でした。

地域交流見学会（エクスカーション）

おおいた建築巡礼～巨匠達の名建築～

県央支部 原 昌吾

さすが大分は磯崎新の生誕地である、初期作品から円熟期の作品があふれています。初めに見学したのは95年作、新大分県立図書館である、特徴は何と言っても天窓よりの強い光を遮るダイナミックなコンクリート板であろう。

次は66年作、旧大分県立大分図書館（現磯崎作品展示場で名称アートプラザ）は学会賞受賞作品、未来へ次世代へ発展しそうな未完成の感じが残る作品である。

世界各地の磯崎作品の写真と模型が展示されており創造を駆り立てられる建物である。

大分市立美術館は内井昭蔵氏の設計、磯崎作品とは違う、優しく女性の様な優雅さに溢れている感じがします。

昼食は郷土料理のお店で堪能し午後スタート、岩田学園キャンパス校舎、なぜか私には映画スターウオーズを思い起こします、初期作品らしく、建築に対する一途な思いが感じられる作品です。最後は大分県立美術館、設計はプリツカー賞の坂茂氏、折れ戸方式で開く硝子張り壁（窓）が、外部と一体感を構成し解放感にあふれた空間を作り出しています。

あんなにも憧れていた磯崎作品に触れ、熱く語った時代を思い起こしてくれた大分の旅でした。



新大分県立図書館ホール天井



旧大分市立美術館



おしゃれな STEP

このたびの全国大会「大分大会」で表彰された皆さんをご紹介します。おめでとうございます。

■連合会長表彰



堀 健夫 氏（県庁職域支部）
神奈川県住宅供給公社 専務理事
県庁職域支部元支部長

「住宅政策、団地再生などへの取り組みを評価していただいたと受けとめ今後も精進します。」



遠藤 正治 氏（相模原支部）
NPO法人建築文化研究会 幹事・会計
元副支部長・会計、現防災委員会委員

「支部及び士会会長がご推薦下さり受彰でき感謝し、また感謝に堪えません。会に35年ほど連なり目立つ活躍はあまりなく、これからも地道に体力気力の続く限り、この道を歩み続けたいと思います。」



小澤 勝美 氏（横浜支部）
(株)ユー・アール・ユー総合研究所 代表取締役
CPD プログラム審査評議会・専攻建築士審査評議会評議員、建築技術等部会委員（連合会）、景観整備機構委員会地域貢献部会委員、横浜支部技術・情報委員会委員

「皆様のご支援のもと受賞したことに感謝申し上げます。燃え尽きるまで建築士として活動していきます。」



受賞者の皆さん
と金子会長

■伝統技能者表彰



小田原 健 氏（横浜支部）
（おだわら たけし）家具デザイナー
出身地・住所地：栃木県・横浜市中区
勤務先：(株)ベル研究所

受賞者の小田原さんに、インタビューをいたしましたのでご紹介します。

◆プロフィール・生い立ち

少年時代に栃木県の自然豊かな環境で遊んでいました。私の玩具は、切り出しナイフと鋸があれば釣竿や野球のバットなどを作り楽しんでいたことを思い出します。父から設計図の書き方を、母からは風景や草花のスケッチの教えを受け、正しい物造りが身に付いたのかと思います。

◆家具デザイナーになったきっかけ

「口紅から機関車まで」工業デザイナー レイモンド・ローウィの一冊の本に出会い、こんな楽しい仕事があったのか、昭和24年頃、人生の師を見つけた気持ちでした。身近な伯父に相談したところ、技術の基礎を身に付けることが大切だよと、早速、伯父の紹介で昭和の左甚五郎といわれた木工芸の名人 三輪磯松氏の工房に弟子入りさせて頂き、技術とデザインを身につけさせて頂くことができました。

◆代表的なお仕事

技術の基礎と設計製図の自信をつけ、志しのデザイナーの世界に飛び込み、厳しい世界を耐えながら技術とデザイン提案で一流建築家と仕事の交流ができました。特に吉村順三先生との出会いこそ運でした。この人に習いたい、デザイン哲学、日本人の感性、特に椅子のデザインはすべての要素が含まれているという言葉は感動の連続でした。28歳で東京芸大で建築科の講師の任命を受け、22年間多くの生徒との交流ができたことがすべてかと思っています。

◆現在のお仕事

「日本の木と共に暮らす」をテーマに、国産木材の有効利用をベースに商品開発デザインと木工職人（特に木工建具）と技術的研究を進め、多くの消費者に直接顔の見える職人を紹介できるように進めています。約20年各地の木工建具協同組合等の協力により、戸建住宅、マンション等のリフォーム実績を築き発展的仕事を進めています。

◆心がけていること

新建材の普及により耐久性の無い住宅が増加しています。家は財産と思い、住んでいます。約25年でボロボロ住宅が現状です。住環境も自然環境も次への時代に渡せる家づくりが急務です。新建材は劣化し有害物質のゴミの山汚染、歴史が証明している自然素材を活かした技術とデザインが大切です。

◆受賞の感想

受賞した事を亡き両親と、木工芸名人三輪磯松親方、デザイン哲学の心を教えてくださった吉村順三先生に伝えることができたことを嬉しく思っています。

◆最後に、今後の活動についてお伺いしました。

全国の林業者と各地の関連職人との発展的交流を広げ、顔の見える職人作品に信頼のブランド化をして消費者に伝える活動を進める準備をします。今後各地を訪問して交流セミナーを計画しています。

- ・2015年 木更津にモデルルーム完成
- ・2016年 仙台に南三陸復興デザインセンター展示場完成
- ・2017年春(予定) 東京自由が丘に唐松材FSC、177アサヒ計画中

これからも、益々のご活躍を期待いたします。



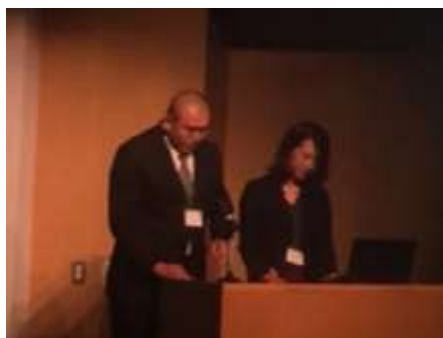
神奈川県建築士会

第14回活動交流会「継（つなぐ）」

2016年11月3日（祝・木）、神奈川県厚木市・厚木商工会議所5F会議室において、第14回活動交流会が開催されました。この活動交流会は“女性建築士の集い”を起源として以降、本会を代表する行事のひとつとなりました。今年は2017年6月に「関ブロかながわ箱根大会」を開催する青年委員会

がブレ大会と位置付け、また、この交流会の原点に返ることを目的に、各委員会や部会、支部のみなさんによる活動発表会を開催。県内外から70名のみなさまにご参加いただきました。ご協力いただきました委員会、部会、支部の皆様にはこの場をお借りいたしまして感謝と御礼を申し上げます。

第一分科会「過去から未来へ継（つなぐ）“今”」



▲発表を行う防災委員会・内田さん（左）と、女性委員会・横山さん（右）

毎年開催されている“関ブロ大会”と同じスタイルで開催した第一分科会は、お互いの活動を発表しあうことで、委員会や部会、支部のみなさまの様々な角度からの着眼点や企画など、実施に向けてのアクションを共有し、活動のブラッシュアップと、会員の多くが一堂に会する場において各実施主体のPR等も含めて会の活性化を目的に開催したものです。

なお、この分科会は金子会長を代表とするみなさまによって、審査をさせていただき、1位に入賞した、女性委員会+防災委員会による「つどう、つくる、つながる、ひろがる、そして支え合う～女性委員会と防災委員会の共同活動～」が2017年開催の関ブロかながわ箱根大会における神奈川県の代表発表に選ばれました。

第一分科会に参加して

青年委員 前島浩吉（川崎支部）

第一分科会の活動発表会は、来年の関ブロかながわ箱根大会の神奈川県代表発表の予選会となっていて、審査員による審査もありました。9つの発表があり、各々のテーマを持った委員会・部会の発表。支部ごとの特色ある企画や活動の発表。活発な質疑応答も行われ、大変聴きごたえのある活動発表会でした。自分自身が所属している青年委員会・川崎支部の活動については知っていても、他の委員会や支部での活動は普段なかなか聞くことができず、今回の活動発表会は今年入会した私にとって建築士会を知る良い機会となりました。今回の活動発表会で、興味を持った勉強会やセミナーへ積極的に参加し、建築士会とつながっていきたくと思いました。



▲大会を伝える「建設通信新聞」（2016年11月7日号）

第一分科会に参加して

青年委員 三和舞子（湘南支部）

私は建築士会に入ってからもうすぐ1年になります。仕事の合間をみて青年委員会の活動に参加していますが、この交流会で発表を行った青年委員会、県央支部、県庁職域支部と、審査対象となった、福祉部会、木造塾部会、子ども生活環境部会、建築環境部会、女性委員会+防災委員会、川崎支部の代表9名の発表を聞かせていただき、こんなに幅広く、様々な活動を行っていたことをこの活動発表会で知ることができ、建築をいろんな角度から考えていく必要があることを学びました。



▲大会参加者（全71名）。

多くのみなさまにご参加いただきありがとうございました。

第二分科会「空き家問題を考える」／「建築甲子園・かながわ大会」

第2分科会では「空き家問題」を題材として、基調講演に景観整備機構の長瀬光市委員長による講和「空き家問題、全国での利活用の動向」と、建築士会連合会で毎年開催している「建築甲子園」の題材にもこの空き家問題が含まれ、建築士の視線のみならず、学生の視線がどうなのか？また、建築を学ぶ高校生と建築士会を「継（つなぐ）ぐ」「きっかげ」として、この交流会で神奈川県代表を選考いたしました。

現在、高校3年生の子どもたちの着眼点は素晴らしく、また、これから建築へ志していく“思い”に負けないよう、私たち建築士会員は心新たにするような分科会となりました。

優勝・川崎市立川崎総合科学高校 「Engawa Style Engawa Story」



▲初出場で優勝された川崎総合科学高校さん。県内でも空き家率の高い三浦を題材として、三崎港から海南神社までの縁側を演出。縁側から生まれるコミュニティを形成し、縁側のコミュニティとライフストーリーを重ねて物語化したもの。



▲今回の選考会では高校生によるプレゼンを試み、会場・ビデオにより、高校生たちの思いを聞かせて頂きました。

特別賞・神奈川県立神奈川工業高等学校 「街の中の、見えない空き家」



▲神奈川工業高校さんは特別賞。空き家問題は郊外のみならず、自分の足下にもあると、あえて横浜・港北ニュータウンを題材に。角地、袋小路、両側住宅の3パターンをコミュニティの場として再生していくもの。

第二分科会に参加して 青年委員 阿比留博章（県庁職域支部）

「空き家」を題材とした建築甲子園。場所や敷地、空き家と地域との関係等の設定は自由ということで、両校とも発想力豊かな作品となっていました。

三浦市内の商店街における空き家の利活用をテーマにした、川崎総合科学高校の作品は、地域性や地域資源などについて調査し、閉ざされたシャッター街に『縁側』を設け、人・時間・歴史等を「つなぐ」ことにより地域を継続的に活性化することをコンセプトとしており、高校生のものとは思えないほどの完成度の高さでした。

一方の、神奈川工業高校は、文化祭や試験等の日程上の都合でビデオ出演でのプレゼンテーションとなりましたが、住宅のプランニングを工夫して、空き家の再生を図るといった点で、よく考えられた作品となっていました。また、インタビュアー（青年委員・熊沢さん）の質問には、どの生徒さんも将来のビジョンをしっかりとっていて、頼もしさを感じさせられました。

今年度の神奈川代表に選ばれた川崎総合高校の生徒さん4人の、本大会での活躍が楽しみです。

懇親会

懇親会では恒例となった「PRタイム」の他、この度、本会情報広報委員会により製作された神奈川県建築士会ユニフォーム（ジャンパー）が披露されたほか、次回、活動交流会の開催の主管が「県央支部」となることが発表されました。参加されたすべてのみなさま、ありがとうございました！

次回開催は「県央支部」となります。
詳細が決定次第、公開いたします！



支部・委員会活動報告

中支部 研修旅行

日本遺産 大山阿夫利神社・日向薬師参拝

内田 幸夫

去る 10 月 15 日（土）、2016 年の中支部の研修旅行として、伊勢原の歴史を訪ねるバスツアーが開催されました。まず最初の目的地、日本遺産に登録された大山の阿夫利神社へは、昨年新しくなったケーブルカーで。神社のご協力により正式参拝を受け、会の益々の発展を祈りました。その後、阿夫利神社の権禰宜（ごんねぎ）の方からの解説により、知る人ぞ知る大山の歴史の裏話などを聞き境内を見学。二つ目の見学場所、大山寺の後は名物の豆腐料理の昼食と参道の散策。最後の訪問先、日向薬師では、7 年に渡る修復工事を終え、11 月 20 日に落慶を迎えた重要文化財宝城坊本堂内部と貴重な宝物が収蔵された宝殿を見学。僭越ながら、文化財建造物木工技能者として修復に参加しました私、内田が現場をご案内させていただきました。神社さま、薬師さまのご協力をいただき、一般では見聞きできないところ、貴重な経験をしていただけたのではないかと思います。ご参加ありがとうございました。



阿夫利神社下社拝殿前にて



（上）一般には立入り禁止の
宝城坊内陣を特別見学
（左）阿夫利神社拝殿地下へ

湘南支部 おそうじワークショップ 民俗資料館（旧和田家）

大谷 篤

12 月 4 日（日）茅ヶ崎市堤の民俗資料館（旧和田家）で行われた「おそうじワークショップ」に、春日支部長他支部会員 4 名で参加してきましたので報告します。

湘南支部では、今年度、茅ヶ崎市教育委員会および東海大学工学部建築学科小沢研究室と「民俗資料館保存活用検証実行委員会」を組織し、様々な活動と一緒に実施しています。6 月にワークショップ「旧和田家住宅の魅力を探る－民家のみかた・調べかた」を開催したのを皮切りに、7 月は子ども向けのワークショップ「民家ってなんだろう？旧和田家でむかしの家を探検！」、9 月には旧和田家の建築現況調査を行っています。

旧和田家は、大岡越前侯の菩提寺である浄見寺の隣に、昭和 60 年に移築復元された江戸時代末期の名主の母屋で、市の重要文化財です。当日は師走としては暖かな日和に恵まれ、軍手・タオル・マスクの完全武装の一般参加者が 12 名、小沢研究室の学生 9 名を含む市、士会、ボランティアなどスタッフも 25 名集まり、ベテラン建具職人の石井さんを講師に、広い農家住宅に 26 枚もある障子の張り替えや、ぬか袋を使った柱みがきを体験しました。

なかなか、文化財の柱や建具に直接触れられる機会はないため、皆さん嬉々として作業されていたのが印象的で、最後は、真新しい障子戸と艶を取り戻した大黒柱に囲まれ、火の熾されたいろり端でお汁粉を味わうという至福の時を経験することができました。



障子張りの様子

支部・委員会活動報告

小田原地方支部 「秋の見学会開催」 (11月11日～12日) 支部長 猪股 正雄

国宝犬山城天守閣

(11月11日見学)



右上：石落し・右下：魔除（亀の甲羅に乗る桃）

◆入母屋 2 重 2 階に望楼を載せた望楼型天守。正面・背面に唐破風、南面・西面に平屋の付櫓、内部は 4 階・地下に踊り場を含む 2 階が付く。・・・いつの日か再び訪れたいお城です・・・

国宝茶室如庵



◆元和 4 年に織田信長の弟・織田有楽斎により建造され、明治 41 年に東京の三井本邸に移築、昭和 13 年に中郡大磯町の別荘に移築、昭和 47 年現在地に移築・・・神奈川県に馴染みのある茶室です・・・

春秋開催「犬山祭」に使用の車山



山を一度はご覧あれ・・・

◆11 輦が 1 個所に集結する秋の犬山祭を訪れて、迫力ある夜車

帝国ホテルの椅子 (11月12日見学)



た大谷石の建物と融合する様にデザインされた椅子・・・

◆大正 12 年に完成した帝国ホテルの中央玄関、幾何学模様を施し



犬山城野面積み石垣前

明治村

今年も沢山の

方々にご参加頂きまして、有難うございました。

県央支部 街あるき

「厚木の建築を訪ねてみよう」

伊藤 誠一

県央支部は毎年支部の 5 市 1 町村の中からターゲットを決め、街歩きを企画しています。昨年度は大和市を、今年は第 2 弾として厚木市をメインとした街あるきを 10 月 6 日（木）に開催いたしました。

平日の中にも関わらず 16 名の方に参加して頂きました。今回は、街あるきといいながらも移動はバスを使つての街見学となり、見学先としては「厚木市斎場、古民家岸邸、妻田薬師」の 3 ヶ所のコースをめぐりましたが、特に厚木市斎場については、通常では見ることもできない裏動線や設備についても見学することが出来、設備に関して担当者の方からの説明を受け、とても良い経験になりました。



また、妻田薬師については、地元のお祭りの際にしか開けることのない仏堂内部を見ることができ、これも貴重な

今後も県央支部では、支部内の市町村の『街あるき』と題した見学会を企画していきますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。



支部・委員会活動報告

川崎支部「中大規模木造建築物」講習会

前島 浩吉



平成 28 年 10 月 3 日、川崎支部主催の「中大規模木造建築物」講習会が開催されました。日本は、国土面積の 2/3 が森林を占め、国内森林の多くが利用

可能な時期になっており、木材利用は地球温暖化防止、森林の再生、国土の保全、水源のかん養等に役立ちます。しかし、低価格な外国産材の影響などから、国産材の需要低下が続いているそうです。国においては、平成 22 年 10 月に公共建築物における木材利用促進に関する法律を施行し、木材利用への取り組みが進んでいます。第一部では、「川崎市の取り組みについて」として、平成 27 年 10 月に設立した川崎市木材利用促進フォーラムの活動報告、PR としての川崎市木造利用事例マップの紹介、新たな取り組みとしてビジネスマッチング等の紹介がありました。また、川崎市では質の高い木材利用促進のため、プロポーザル方式による設計者選定を実施するそうですが、木造化・木質化への取組みを盛上げる為にも、多くの設計者が参加することが重要であるということでした。第二部では、「木造保育園の基礎知識」として、木構造建築の基本となる木材の流通や製材と集成材の比較、モジュール、JAS 工場、プレカットなどのお話や、木構造の準耐火建築物・耐火建築物の仕様、内装制限についての具体例、木造化・木質化事例など盛りだくさんで、大変参考になるお話が聞けました。また、今後の課題として、安い外産材から国産材・県産材を使う方法を考えなければいけない。必ずしも大断面の木材を使うのではなく、小断面材の利用方法を考えなければいけない。維持管理のコストが掛かることを考えなければいけない。という課題があり、これらを考える為には木の特性を理解することが必要だというお話でした。最後の第三部では、「木材利用の事例紹介」として、木造化・木質化への取組みを行った建築事例を数多く紹介して頂き、大変参考になりました。講習終了後は懇親会へも参加させて頂き、楽しく情報交換させて頂きました。

教育講習委員会

高い意識

委員長 高橋 秀行

晩秋の雪。観測史上記録的な気候となった 11 月 24 日建築士法第 22 条 4 に基づく建築士会技術研修「木造 2 階住宅の構造計算編」を開催した。

申込者は 104 名。木造構造計算に対する意識の高さがうかがえる。参加者の多くは意匠事務所系の建築士であった。確認申請において不要とされている構造計算に彼ら自身が興味を持ち、それは建物の安全性能を理解しようとする意識の高まりであり、近年頻繁に起きている地震や異常気象、また、土の中に潜んでいる目に見えぬ課題への意識が深まったといえよう。

押さえておきたい構造の基本を「木造計算編」と「基礎・地盤編」に分け専門の講師による研修となった。多くの質疑応答もあり熱気のうちに閉会した。

この技術研修はすべての建築士のための総合研修であり、建築士会会員以外の参加者が一割程、また、他業種の方も数名。社会全体の意識が向上していると感じた。



技術研修の様子

今後も幅広いテーマで講習会を企画しております。ふるってご参加ください。

【今後の講習会の予定（今年度）】

- ・ 1 月 23 日(月)「中大規模木造設計セミナー」DVD 講習会
- ・ 2 月 3 日(金)「建築設計のための BIM 活用」講習会
- ・ 2 月 27 日(月)「木造住宅の見積りとコストダウンの仕組み」講習会
- ・ 3 月中旬 「第 60 回神奈川建築コンクール入賞作品」見学会

支部・委員会活動報告

女性委員会

こどもの社会学習の場

女性委員会の活動の様子

副委員長 番場 絵里香

私は小学生の一人娘がおり、遠出の委員会行事は控えています。休日の活動には常に娘も参加させています。大人と関わる事、社会勉強をする事を目的としています。多忙な中、娘と関わる貴重な時間にもなります。何度か、「HUGゲーム」を体験し、その発言力や思考方法に驚くこともありました。委員長も子供を連れて飛び回っていますし、秋には、一委員の出産もありました。現在は20代からすべての世代の委員がいます。歴代委員長の意見も取り入れながら、日々の悩みから建築の価値観まで、幅広く意見交換があります。自身の生活を充

実させるために、興味があるかたは是非、月毎の定例やイベントに参加してみて頂けると嬉しいです。



もみじの家 見学会にて

来年6月関東プロ青年協箱根大会への準備状況 及び2月の見学会開催のお知らせ

委員長 浦 絵美

女性委員会は、2017年6月23日に開催される関東甲信越ブロック（以後：関ブロ）1都9県（茨城・栃木・千葉・東京・埼玉・神奈川・山梨・群馬・長野・新潟）青年協議会主催の箱根大会で第二分科会に協力します。第二分科会のテーマは、「この地に30年住まうには？」と対象が広範囲なため、何に焦点を当てるか、様々な方々にアドバイスを頂きながら検討を重ねております。住宅について調査している際、UR都市開発機構の集合住宅歴史館という大変興味深い施設を見つけました。そこで、見学会のアナウンスです。2017年2月6日に、歴史館見学ツアーを青年委員会と共に企画しております。皆様参加のツアーなのでぜひ参加のほどよろしくお願い致します。

第二分科会の進捗ですが、定例会議は毎月行い、2ヶ月毎に講評をお願いする建築家：山本理顕さんとの打合

せを予定し、既に9、11月と青年委員会の第二分科会担当と共に、2回の打合せをしました。6月に向けて回数は増える予定です。毎回、山本理顕さんより共に学ぶ機会を頂き、その回答の打合せを第二分科会担当メンバーで行い、次の打合せに臨むというスタイルで行います。学生時代の「課題へ取組む気持ち」を思い出しつつ、建築のプロとしてどうあるべきか、考える事はたくさんです。仕事をしながらの取組みは大変ですが、やり甲斐のある、そして学生のノリもある楽しい作業です。「準備する側が楽しめば、参加者も楽しんで頂ける！」をモットーに進めています。一つを突き詰めれば、ゴールは見えてくる…皆様、ぜひ、第二分科会で熱い議論を交わしましょう。



山本理顕設計工場にて

寄り道 女性委員会に入会して

竹島 比佐子

設計事務所に勤務して数十年、自宅と会社を往復する毎日でしたが、今年初めに女性委員会に入会しました。今までほかの設計事務所の方と積極的に交わることがない生活から、少し外の世界をのぞいてみたい、そんな安易な気持ちだったのですが、初参加の定例会では知らない単語が飛び交い、2回目の定例会でさっそく役目を仰せつかりと、女性委員会の諸先輩方はなかなかのスパルタ体質です。私は来年の関ブロ箱根大会（この言葉も初めは全然わかりませんでした）の第2分科会のコメンターとして打合せに参加することになりました。やっいていけるのか、大丈夫か、と不安もありましたが、参加してみると「あれ？なんか楽しいゾ」と感じている自分に気づきました。「積極的になればなるほど、楽しい」ということを体感させるためのスパルタ、いえ優しさだったのだと思います。会社勤めで時間がいくらあっても足りない業種ではありますが、思いがけず楽しい寄り道先ができたことで、この先の自分がどのような影響を受け変化していくのか楽しみとなりました。

そして私も何かを発信していけたらと思っています。

◆委員長から一言◆

(村島 正章)

今回は4部会勢揃いです。どの講習会やイベントも特徴があり好評でした。

今年度残り数か月ですが、まだ講習会の予定がありますので、是非参加して知見を広げ仲間を増やして下さい。

■子どもの生活環境部会

(関口佐代子)

11月6日(日)に藤沢市のふじさわ宿交流館で「藤沢宿のまち探検～蔵と町家をさがそう～」を開催しました。お天気に恵まれて、気持ちの良いまち歩きとなりました。この企画は、藤沢市郷土歴史課と藤沢市で活動している

「昔の遊びを伝える会」が主催し、子ども部会が講師をして協力、実施したものです。小学生を対象とし、藤沢宿地区の魅力に触れてもらう事を目的としています。今回は保護者の方々にも一緒に参加してもらい、「蔵さがし」を楽しみました。まず最初に交流館にあるジオラマを見ながら藤沢宿とは？という説明を聞き、まち探検に出発。蔵を見つけたら地図にシールを貼ります。



『私は小学3年生男子チームと一緒にまち歩きをしました。「これは蔵かな？蔵じゃないかな？」蔵だったら「石の蔵か土の蔵か」皆で考えます。蔵には大切な物をしまっていたこと、昔は何を売っていたお店だったか、想像しながら説明を聞きます。ゲーム世代の小学生男子に藤沢宿や蔵の話は難しかったかな？と不安でしたが、後日談で小3の息子が蔵造風の寿司屋の前で「どうしてこの建物には蔵の絵が書いてあるの？これは本物の蔵じゃない。壁が薄いから」と話して驚きました。実際に蔵を見て、壁が厚いことを体験したからこそそのセリフ！嬉しかったです。(稲村)』

↓蔵のペーパークラフトもみんなで作りました。



12月には近くの蔵まえギャラリーで建物探検とお米屋さん体験のワークショップを計画しています。ご興味のある方はこちらまでお問合せください。

kodomo@kanagawa-kentikusikai.com

■建築環境部会

(加藤 哲也)

11月20日、早歩きで紅葉坂を登ると、すこし汗ばむような日和のなか、坂の上にある横浜市教育会館にて「2020年住宅の省エネ基準適合に向けてこれからの建築(住宅)設計に必要なこと」と題した講習会を、建築環境部会主催で行いました。講師には、辻充孝氏(岐阜県立森林文化アカデミー・木造建築スタジオ准教授)を迎え、前半・後半の2部構成で3時間半ほどの濃密な時間を過ごすことができました。前半は断熱性能としての、外皮平均熱貫流率 U_a 値、熱損失係数 Q 値について。後半は外皮平均日射熱取得率 η_A 値、気密性能、防露性能・防露計算、エネルギー計算、改修実例による具体的方法など、復習しなければ、とても消化しきれない内容のものとなりました。そうでしょう！復習しなければ身につきませんよ！とばかりに、先生からはそのための宿題が、配布資料の最後にしっかりとありました。

宿題					
当初モデルの外壁(漏気なし)の断熱を200mmに変更(熱橋も200)した場合の、 U_a 値、 Q 値、 η_A 値、 μ 値の値を求めよ。					
	外壁CF105mm	外壁CF200mm			
① U_a 値	0.57W/m ² K	???W/m ² K	0.5		
② Q 値	1.89W/m ² K	???W/m ² K	1.1		
③ η_A 値	1.9	???	1.1		
④任意の壁の結露危険度判定①を行う					

改正省エネ法義務化の年の2020年まではあと3年余となりました。省エネのための断熱、省エネのための住宅設計、省エネという文字がつくと、いかにエネルギーを使わずにつくることができるか、そのことが目的の主であると思いがちですが、講師の辻先生はそこを、人の「生命」を主とした目的のためにこの法改正はある、そのような意味の言葉を私は感じました。そんな思いがひしひしと伝わってくるような講習会でした。法というツールは、ただマニュアルどおり従っているだけでは、街や家をすごしやすい形へと変えることは難しい。そこに込められた思いを実現するために、そのツールを利用する。そのためには、より深く理解できるような取組が必要となる。今回の講習会もそのような考えのもとに企画されました。

内容は、設計にすぐに活かすことができるものばかりで、設計(考え)の中をひろげてくれるような資料も盛りだくさん。来年再び、先生をお招きしたい！

断熱と気密性能の指標 (g/m ³)					
温度	絶対湿度	湿度	絶対湿度	湿度	絶対湿度
-5.0	3.244	0.0	4.845	5.0	6.792
-4.9	3.271	0.1	4.879	5.1	6.837
-4.8	3.297	0.2	4.912	5.2	6.883
-4.7	3.325	0.3	4.946	5.3	6.928
-4.6	3.352	0.4	4.980		

■福祉部会

(澤田 晃一)

11月12日「リハビリ専門職の視点から学ぶ住環境整備のヒント～福祉用具や補装具の実体験をしたことありますか?」と題された福祉部会研修会に参加しました。厚木市七沢にある神奈川県総合リハビリテーションセンターでの開催でした。

体験型研修という事で①下肢装具を付けての歩行体験②車椅子に乗った移動体験③リフトを使ったベッドへの移乗体験の3つのコースを3班に分かれて体験しました。

私たちの班は車椅子体験からでした。78cmの廊下を90°曲がり、その先にある90°に曲がる78cmの出入口に入る平面移動の体験。そして勾配が1/8と1/6の坂を上り下りする体験。両手両足が使える状態では平面移動は難なくこなせ、坂はとてもきつく苦しみましたがどうにかクリア出来ました。しかし、半身麻痺という設定で片手・片足のみの車椅子移動では平面移動はどうにか出来ましたが、坂の上り下りは出来ませんでした。半身麻痺の方が移動する事にどれくらい辛い思いをされているのかがとてもよく分かりました。

次にリフトを使って椅子からベッドへの移乗体験。二人が介護者と要介護者になって体験しました。網状の装具を要介護者の体にセットし、リフトに要介護者を固定・吊り上げ、ベッドへの移動そして吊り下げ・装具外しの行程です。慣れないせいもありますが、もどかしさを感じました。移乗はベッドだけではなく浴室や他の場所もあるでしょう。そして一日の中で何度この行為を行うのか。このことが1年365日続くことに何かを感じずにはいませんでした。

最後に下肢装具を付けた歩行体験。片足に下肢装具を付け、膝が曲がらないように固定しての歩行。講師より正



しい歩き方を教わり杖について歩きましたが、歩き辛く、階段の上り下りにも難儀しました。また、ネームホルダーを吊り下げるストラップを首に吊り下げ、ズボンのベルトに固定、常時腰を曲げた状態での歩行。ご高齢の方によく見られる姿ですが、いざ自分がその状態になるときつくて辛くて歩行する大変さがとてもよく分かりました。

今回の体験型研修を受けて身体が健康であることがいかに幸せかを感じました。そして、設計をするときの姿勢として頭のみで考えるのではなく、体で感じて設計をするということの大切さを今回の研修で再認識しました。

■木造塾部会

(角 栄子)

10月15日(土)に南区総合庁舎1階多目的ホールにて講習会を実施致しました。タイトルは「平成28年度第2回木造塾講習会×木材利用促進研修会 2016yokohama地域材を知ろう!」横浜市建築局と共催での実施。当日の参加者は75名でした。

講師として以下の4名の方をお迎えしました。

吉岡 幹敏氏 (吉岡木材株式会社)

市川 寛 氏 (株式会社市川屋)

浅岡 新二氏 (株式会社浅岡装飾)

佐藤 光男氏 (NPO法人道志・森づくりネットワーク)

本講習は神奈川における地域材(関東甲信地方に属する都県および静岡県で生産された木材)について、まず神奈川県産材に関して生産者の現状を知ることを目的としたもので、会場を南区総合庁舎(平成27年度竣工、内装木質化、県産材利用)とし県産材利用実例の見学会を兼ねて実施しました。

まず吉岡氏から資料「神奈川の森林・林業2016」「神奈川の林業再生の取り組み」等から引用し県産材の状況を伺いました。また、自社取り扱い製材<県産木材の天然乾燥材>や大工に手刻みの加工場所を提供する取り組みについても紹介されました。

次に、市川氏からは最新のプレカット機の導入状況やJAS認定取得について伺いました。取り扱い製材は<機械乾燥し自社でプレカットしたもの>、神奈川にも設備が整ってきています。また南区役所に納入された木材については打合せや納期のご苦労も分かりました。

3人目の登壇者浅岡氏は区役所の内装木質化工事の施工者です。モックアップを用いての説明を聞いた上で見学しました。具体的な施工の話は大変勉強になりました。最後に佐藤氏より道志の森の状況を伺いました。NPOが中間組織として間伐材が循環する村づくりを目指し活動されているとのこと。企業やボランティアの手も入り森林整備も新しい発想で改善が見えてきそうです。



10月15日(土)講習会の様子

第3回は平成29年2月4日(土)左官職人の久住有生さんを講師にお迎えします。ご参加お待ちしております。